

事業報告書

令和3年4月1日から
令和4年3月31日まで

1 事業の概況

人口減少と高齢化が進む中、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、大変厳しい経営環境が続いております。

本年度は、DMV（デュアルモードビークル）の本格営業運行開始を目標に準備・調整を進めてまいりました結果、「世界初の壁」を乗り越え、2021年12月25日に営業運行を開始することが出来ました。

営業面につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け売上が伸びない状況が続きました。その中でも、DMV運行開始前のプロモーション活動において、地元の生徒を対象として見学会や、沿線住民を対象とした試乗会、また、各種イベントや SNS による情報発信を実施するなど、積極的にDMV情報を発信

し、運行開始に向けて機運醸成を図ることが出来ました。その結果、運行開始直後には多くの方に乗車いただきました。

その後、オミクロン株の影響もあって、乗車人数も低下傾向にありましたが、3月からは持ち直しつつあります。

安全面につきましては、安全・安定輸送完遂のため車両の運転業務や駅業務を厳正に行うとともに、設備の点検・検査を確実にを行い、安全最優先で業務に取り組みました。

また、DMVがもたらす新たな人の流れを地域一体となって受け入れるべく、当社職員だけではなく、地元観光事業者等を巻き込んだ接客・おもてなし研修を実施しました。これは、貴重な体験であり日々の業務のなかで役立っています。

費用面では、平成24年度から取り組んでいる「経営改善計画（平成29年度更新）」に基づき人件費の削減をはじめとする経費節減策を継続的に実施しました。

阿佐東線のご利用状況につきましては、定期外人員は22,102人(対前年比46.5%)、定期人員は1,260人(対前年比116.7%)となり、合計で23,362人(対前年比48.0%)となりました。

損益につきましては、売上原価を差し引いた営業収益が13,312千円(対前年比173.8%)、営業費用が98,433千円(対前年比96.1%)、営業外収益が5,028千円(対前年比98.7%)、営業外費用が1,304千円(対前年比94.0%)となり、当期経

常損失は 81,397 千円(対前年比 89,4%)となりました。これに経営安定基金からの助成金をはじめとする特別利益及び特別損失等を加減し、当期純損失は 1,704 千円となりました。

長引くコロナ禍により、乗車人員が伸び悩む時期が続きましたが、DMV 運行開始以降は「世界初」という注目度もあって乗車人員が増加傾向となり、最終的に運輸収入は対前年を上回る 11,159 千円(対前年比 156.1%)を計上しました。その結果、当期純損失を計上したものの、当期経常損失の改善につながりました。

今後も阿佐東地域の少子・高齢化、人口減少、マイカー世代の高齢者層への拡大といった当社を取り巻く環境は今以上に厳しさを増していくと考えられますが、DMV の営業運行開始が「新しい人の流れ」を生み出し、当社の経営改善、並びに阿佐東地域への経済波及効果を最大限に発揮出来るように進めてまいります。また、地元住民と観光客の大切な移動手段として活用されるよう、当社の使命である安全の確保を最優先として、輸送人員と収入の確保、経費の節減に取り組んでまいります。